

第6号 「“受益者”ではなく、“パートナー”になりたい！」大变身 SHG オバチャン

(平成 17 年 2 月 1 日発行)

ホントに変身 SHG & スタッフ！「アタシたち PCUR-LINK 事業のパートナーになりたい！」

12 月のワークショップで、「甘ったれ SHG など、PCUR-LINK 事業のパートナーではない！」と黄門様に言われた SHG オバチャンたちが、ワークショップの翌日から、動き始めた！

目覚めたオバチャンたちは、「生産・物流センター」の計画 & 運営委員会には、すべての SHG が選ばれるのではない、ことを理解して、目の色が変わってきた。

- ・ “PCUR-LINK 事業におけるパートナー SHG としての必須条件リスト 10 項目”の意味を理解したオバチャンたち。
- ・ 1 月末までに、必須条件リスト 10 項目をすべて満たしたグループのみが、「400 万円の費用で作られる生産・物流センター」の計画 & 運営委員会に選ばれる！
- ・ 委員会のメンバーに選ばれれば、同センターの運営管理が出来るようになる様々な研修を受けられる！
- ・ そして、センターの使い方を自分たちで計画・実行し、その運営をすることができる！

7 月の事業スタート時には、66 の SHG を対象にしていたが、このうち、7 月以降の各種研修にメンバーを送り込まない、月別ミーティングを開催しない 20 のグループが、「やる気なし」として 12 月の時点で、PCUR-LINK 事業から外された。このように事業対象 SHG から外され、12 月のワークショップに招待されなかった SHG や 1 月の月別ミーティングにスタッフが来ない、ことに気づいた SHG が、ちらほらとソムニード事務所にやってくるようになった。

注)ソムニード・スタッフは全員、午後には SHG ミーティングに出かけてしまうのを知っているオバチャンたちは、午前中に事務所にドヤドヤとやってくるのであった。

SHG オバチャン:「どうして、うちのミーティングに来てくれないのですか!？」

水戸黄門:「なぜ、わしらがおまえさんたちのミーティングに来ないかわかるか？」

SHG オバチャン:「貯蓄を定期的にしていなかったり、ローンの返済をしなかったり、ミーティングに欠席する人が多かったり、したからでしょう？」

水戸黄門:「何度も言っておるが、そんなことはわしらは知らん。グループの問題じゃ。おまえさんたちは、7 月以降、12 月まで、わしらが招待した研修にも参加せん、ミーティングも開かん、を

繰り返しておったのだ。それで、われらは、おまえさんたちは、PCUR-LINK 事業に興味がない、と思
ったのじゃよ。自分のグループのことも自分たちで出来ないしな。」

SHG オバチャン:「1 月はちゃんとやるから、どうかミーティングに来てください！」

水戸黄門:「そんな口だけのおまえさんたちは、もう信じられん！まだ、わからんのかっ！おま
えさんたちは、それを 7 月以降、ずっと言い続けていたのじゃ。われらは、12 月までおまえさんたち
が、本当にやる気があるのか、7 ヶ月間、ずっと待っていたのじゃ。7 ヶ月も待って、やっぱりおま
えさんたちは、今までどおり、貯蓄はせん、ローンは返済せん、スタッフが来なきゃミーティングは開か
ん、を繰り返していたのじゃ、もうわれらは、知らん。勝手にせい！」

SHG オバチャン:「そこをなんとか、お情けを。。。」

水戸黄門:「ならんといったら、ならん！それでも、どうしても、というなら、これから 3 ヶ月間きち
んと活動の記録をつけてみなさい。3 ヶ月後の 4 月にソムニードの事務所に連絡をくれれば、スタッ
フがおまえさんたちのミーティングに行く。以上。」

SHG オバチャン:一旦、沈黙。「わかりました。出直してきます。。。」

今まで、月別ミーティングの日時にスタッフが、出かけて行っても、平気でドタキャンするグルー
プのいくつか、ソムニードの事務所に電話をかけてくるようになった。「今日は、メンバーの都合が
悪いから、ミーティングが 日の 時に延期になったの。その時に、ミーティングを見に来てもらえ
ないかしら？」という電話が日に 1 本か、2 本はかかってくる。こうしたグループの多くは、約束の日
時にしかけていけば、必ず約束の時間に全員が揃って、グループの活動をし、前述の 10 項目もほ
とんど 9 点、10 点を獲得するのであった。ミーティングの時間も 1 時間弱で終わるところが多い。(10 月、11 月には、ミーティングの時間は 3 時間、4 時間であった。)

1 月末の時点で、同事業の意義をグループ全員が理解し、SHG の基本的な活動をすべて自ら
の手で行っている、という 10 点満点のグループが 3 つ。(PCUR-LINK 事業におけるパートナー SHG
としての必須条件リスト 10 項目) 1 月 31 日に開かれたスタッフ会議で、議論された結果、この 3 つの
グループが、文句なしに、生産・物流センター計画 & 運営委員会の第一次選考で、ベスト SHG と
して選ばれた。

スタッフ会議後、スタッフたちは、すぐ、この 3 つのグループに生産・物流センター計画 & 運営委
員会発足記念式の招待状を手渡しに行った。プロジェクト・マネージャー (以下、略プロマネ) の署
名入りの招待状を手渡された SHG オバチャンたち。自分たちが努力した結果、66 ある SHG のうち、
ベスト SHG に選ばれたのだ。こんな達成感を今まで一度も味わったことはなかった。全グループメ
ンバーが集まって、拍手で計画 & 運営委員会発足記念式の招待状を受け取った。

「自分たちで努力したことが、評価される。」

この当たり前といえ、当たりの前かがスラムのオバチャンたちには今まで一度もなかった。誰
からも自分たちの努力を評価されたことはなかったのだ。スラムにやってくる市役所の役人、議員な
どの政治家、NGO スタッフ、みんなオバチャンたちを「貧しいスラムの住人」、「受益者」としか扱わ
なかった。ローンだって何だって、「施しを受ける側」ばかりだった彼女たち。そんな立場を当然と受
け入れ、「貧しいから、助けて」と言うしかチャンスをつかむことはないと思っていたオバチャンたち。

PCUR-LINK 便り(10月8日発行)をもう一度見ていただきたい。チェンナイの先進事例地を訪れ、CFDAというNGOの事務所で、「アタシたち、貧しいのよっ」と言い張っていたオバチャンが、なんと1月末の第1次選考でベストSHGとして、運営委員会のメンバーSHGに選ばれた。事業開始後7ヶ月間での、目覚めたオバチャンたちの変化は著しいものがあった。

これから、選ばれた3つのグループのSHGオバチャンたちは、正式にパートナーとしてPCUR-LINK事業に参加することになる。招待状を渡されたグループのリーダーは、早速、「この発足式は全員が招待されてるんだから、あんたたち(グループメンバー)絶対、欠席したり、遅れてきちゃダメよ!!!」と指示を与えていた。

さて、第2次選考に残ったグループが5つ。PCUR-LINK事業の意義はよくわかったが、今までSHGの基本的な活動をしてこなかった為、過去数年におよぶ未返済のローンを一気に返済できないで焦るグループだが、2月末までのグループ活動の成果によって、生産・物流センター計画&運営委員会に選ばれるか、どうかが決まる。第2次選考に残ったことを知らされた5つのグループは、「あと1ヶ月あるんだから、見てなさい!絶対、運営委員会に選ばれるようにするからっ!」とスタッフに宣戦布告?をしていた。

第1次選考で、選ばれたオバチャンたちは、もう「誰かが、何かをくれる」のを待ち続けるだけの「受益者」ではない。彼女たちは、PCUR-LINK事業を実施するためのパートナーとしての第一歩を踏み出したのだ。

スタッフも変身「SHGのことは、SHGでやればいいのよ!」

1月は、午前中はソムニード事務所で、前日のSHGミーティングの振り返り、11月から1月のモニタリング統計資料の作成(5,6回目のやり直し中)、午後は、スラムを訪れ、SHG月別ミーティングに参加、を繰り返したマヒラ・アクションのスタッフ。

1月のある午後のSHG月別ミーティングにおける、マヒラ・アクション・スタッフの様子をご紹介します。

SHG オバチャン:「1月に祭りがあったから、ローンが払えないの。祭りで故郷に帰ったメンバーがまだ戻ってきてないからミーティング出席者が少ないの。」

スタッフ:「あっそう。そんなのSHGの勝手に、スタッフの知ったことじゃないわ!もう来月から、グループ・ミーティングに私は来ないから、SHGで勝手にミーティングやれば。」

スタッフ:「12月のワークショップの内容をグループメンバーで共有したの?」

SHG オバチャン:「PCUR-LINK事業のことだけ?」

スタッフ:「えっ?何?そんなだけ?まだ、話し合ったことあるでしょ?」

SHG オバチャン:「えーっと、なんか生産・物流センターという400万円のセンターをくれるんだっけ?」

スタッフ:「誰が、誰にそういうセンターをくれるわけ?」

SHG オバチャン:「ジャイカっていう会社が、アタシら SHG みんなにしてくれるんじゃないの？」

スタッフ:「ジャイカは正解よ。でも、SHG“みんな”じゃないわ。“PCUR-LINK 事業におけるパートナーSHGとしての必須条件リスト10項目”で10点とれたSHGだけよ。12月のワークショップで水戸黄門様に言われたこと忘れたの？」

SHG オバチャン:「そうだったかなあ？みんなにしてくれるんじゃないの？」

スタッフ:「あのねえ、500ルピーのローンを約束通り返済できなかったり、毎月30ルピー貯蓄する、って言ったのを守らないグループに、400万円のセンターの管理を任せられると思うの！」

SHG オバチャン:「そんな、こと言わずに、また来月のグループ・ミーティングに来てよ。来月はキチンとやるからさあ。」

スタッフ:「どうぞ、ご自由に。私は来ないわ。だって“あなたたちのグループ”でしょ。あなたたちのような口ばかりの無責任なグループとは、PCUR-LINK 事業を一緒にできないわ。」

SHG オバチャン:「えーっ。どうして！！アタシたち来月からちゃんとやるから。」

スタッフ:「そんなこと言い続けて、もう何ヶ月も何もしなかったじゃない。私、もう知らないわ。」
スタッフ、ミーティング場退出。

これが、マヒラ・アクションのスタッフと、SHG オバチャンとのやり取りである。

つい2ヶ月前まで、「貧しいSHG オバチャンを助けてあげなくちゃ」と、手取り足取りSHGの会計記録を付けてあげたり、ミーティングの召集をしたり、銀行に行ってあげてたり、したスタッフ。10点満点の点数をつけるのも、なんとかグループが、ソムニードに気に入られるよう、甘い点数をつけていたスタッフ。ところが、今では、プロマネ、ミーティングの出席者が1名足りないだけで、満点にならなかったグループで、甘い言葉をかけようものなら。。。

プロマネ「このグループのメンバー、PCUR-LINK 事業のことも全員よくわかっているし、きちんとSHGの活動しているし、一生懸命だから、1点くらいオマケしてあげようよ。」

スタッフ:「ナニ言ってるんですか！！ミーティングの最後に、遅れて参加したメンバーが1名いるんですよ。全員参加してこそミーティングの意味があるんです。オマケの点数なんてとんでもない。10点満点には絶対しません。」

プロマネ & SHG メンバー:顔を見合わせて、悲しく沈黙。

やる気のあるSHGなんかに出会くと、ついつい甘い点数をあげたくなるプロマネ提案など、毅然と断られてしまうのであった。SHG オバチャンとスタッフのやり取りなど、黄門様がスタッフにのりうつったようで、怖い。スタッフも大変身しているのであった。

おまけ:全然 PCUR-LINK 事業がわからない、変身しないオバチャンたち

1月末の時点で、同事業の意義を全く理解せず(興味関心なし)、SHGの基本的な活動も自分たちでろくにできないグループが38。

ビシャカパトナムのスラムにときどきやってきては、「プロジェクト」や「ローン」という名前のプレゼントを持ってきてくれた政府や NGO の人たち。今までは、「スラムに住む貧しい受益者」として、「あたしたち貧しいから何かチョーだい。」って言ってれば、誰かが、何かのプレゼントをくれたんだから。ソムニードの人たちだって、きっと何かくれるに違いないって思ってたの。でも、ソムニードの人たちの前で何度も「貧しい、貧しい」とか「助けて」と言ったけど、誰も聞いてくれなかった。マヒラ・アクションのスタッフにも最近「あんたたちのグループなんだから、自分でやんなさい」って無視される。マヒラ・アクションやソムニードのスタッフは、私たちのグループに来なくなったけど、別に問題ないわ。また、誰かが来て、何かくれるだろうから。。。

変身しないオバチャンたちをよそに、「アタシたち、PCUR-LINK 事業の“受益者”ではなく、“パートナー”になりたい！」と大変身を遂げた SHG オバチャンと SHG に厳しくなったスタッフには、次のなる課題が待ち受けているが、それは次号に続くのであった。
